

研 修 の ね ら い

日頃より看護教育にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2026年度の臨地実習指導者オンラインセミナーは、以下の2つのテーマを企画いたしました。

まず、日本赤十字北海道看護大学 学長 安藤史子先生を講師にお招きし「ネガティブ・ケイパビリティ」について講義をいただきます。現在の教育現場は「VUCA（不確実・複雑・曖昧な時代）」と呼ばれ、エビデンス（科学的根拠）だけでは解決できない倫理的葛藤や感情的ケアが求められており、教育現場でもその重要性が増しています。看護教育におけるネガティブ・ケイパビリティ（Negative Capability）とは、患者の苦しみや病状の不確実さなど、「答えの出ない事態」に対して、安易に解決を急がず、その宙ぶらりんな状態に耐え、とどまり続ける能力を指します。迅速な判断を下す「ポジティブ・ケイパビリティ」を補完する力として、この「待つ勇氣」を教えることが、より人間味のあるケアにつながると考えられています。臨床実習指導において「待つ勇氣」を指導者・看護学生が共に学び成長することを期待した研修です。

次に、順天堂大学 客員教授 東 めぐみ 先生から「学生の学びを支えるリフレクション」をテーマとしてリフレクションの意義と方法について学びます。看護実践の経験を振り返り語ることを通して、新たな知や価値を見出す視点を養います。それと共に、リフレクションを教育や実践に活用することが、看護師及び看護学生の成長にどのようにつながるのかの理解を深める研修になると思います。

これらの研修が、日々の臨地実習指導において知見を広げる機会になれば幸いです。

今年度の研修もオンラインで3か月の配信となります。多数の視聴申し込みをお待ちしております。